

ふれあい情報誌

みなみの

Hospital Medicine Magazine Minamino

2018

26号

2018.7発行



- リハビリテーション科のご紹介③ 言語聴覚士編
- 摂食・嚥下リハビリテーションと機能的自立度評価



医療法人仁寿会

南野病院

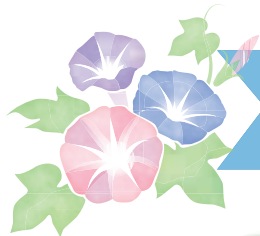


基本理念

患者様に安全と安心と満足を提供します。

患者様の権利

●選べる権利 ●知る権利 ●参加する権利 ●自ら決める権利 ●プライバシーに関する権利



「普通」の事を大事にしています

南野病院 院長 南野 淳



今回は当院の言語聴覚士の紹介です。私たちは特別なことができない代わりに、落としがちな「普通」の事を大事にしたいと考えています。口腔ケアや摂食機能訓練、言語療法なども大切だねと、気がついたら言語聴覚士は同規模の医療機関より増えてしまいました。

口腔関連ケアは、看護・介護スタッフ、言語聴覚

士、歯科領域など関わる分野が多いほど譲り合いが生じます。当院の特徴は、それぞれが各分野を理解し少しでも手助けできれば、と棲み分けている点です。口腔ケアが完了していれば摂食機能訓練に集中することができますし、成果が上がってきたのもそれぞれの協力のおかげだと思います。

結果予想外だったのですが、食べ始めるとADLが予想以上に改善する方が多かったことです。紹介の中でも触れていますが、かなりの差が見られています。良くなる方は食べる事ができると言われるかも知れませんが、我々は食べさせる努力を惜しみません。同じように意思疎通も粘り強くやってくれています。日々頑張っているセラピストの紹介をどうぞ一読ください。

リハビリテーション科のご紹介 3

言語聴覚士(ST)編



リハビリテーション科は、リハビリの専門家であるセラピストによって構成されており、患者様が日常生活に必要とされる動作を獲得し、生活の質(QOL)を向上できるよう、積極的なリハビリテーションを行います。当院には、理学療法士(PT)18名、作業療法士(OT)12名、言語聴覚士(ST)8名の多くのセラピストが勤務しています。三回シリーズの最終回に当たる今回は、言語聴覚士に焦点をあててご紹介します。



言語聴覚士とリハビリテーション

当院には8名の言語聴覚士が在籍しており、医師や看護師、介護士、薬剤師、管理栄養士といった多職種で連携しながら24時間365日の生活リハビリを行っています。言語聴覚士が行うリハビリテーションは言語療法といい、「食べる」「コミュニケーション」といった日常の生活に欠かすことができないことに関するリハビリです。実際のリハビリテーションについて、いくつか紹介します。



食べる訓練（摂食・嚥下訓練）

口から食事を食べられるようになることを目指した訓練です。



①口や舌の運動（口腔機能）訓練

食べ物を口に取り込んだり、舌で喉に送ったりする能力を高める訓練です。口や舌の筋肉のマッサージや上下左右に動かす反復運動などを行います。

②飲み込み（摂食）訓練

食べ物を飲み込むために必要な能力を高める訓練です。首やのどの筋肉のマッサージ、唾液を飲み込む練習からはじめ、その後、ゼリーなどの喉を通りやすい食べ物を使った練習などを行います。



③食事（摂食）訓練

実際の食事を安定して食べられるようになるための訓練です。患者様の状態に合わせた食事姿勢の調整や、患者様の嚥む・飲み込む能力に合わせた食事形態の調整を行います。また、安全に、落ち着いて食べていただけるように、食事をする場所や介助者の位置の調整、スプーンの大きさによる一口量の調整など、細かい環境調整も行います。

コミュニケーション訓練（失語症訓練、構音訓練）

「話す」「聴く」「書く」「読む」といったコミュニケーションに必要な能力を向上させる訓練です。



①失語症訓練

脳梗塞や脳出血などの病気により、相手の言葉を理解する能力、自分が伝えたい言葉を口にしたり文字にしたりする能力が低下することがあります。これらの低下した能力を取り戻すための訓練です。

言葉を引き出すための、絵や文字カードを用いた復唱や、文字を書くことなどを行い、脳に刺激を与えます。また、指差しなどで意思表示ができるように、文字や絵をまとめたコミュニケーション用のノートやボードを作成することなども行います。



②構音訓練

脳の障害などにより、呼吸や口・舌の動きが鈍くなった、呂律が回りづらい、声が出しづらい、発音がしづらいといった方のための訓練です。口や舌を意識的に動かす練習や、正しい呼吸ができるような発声訓練などを行います。

私たち、言語聴覚士は、昨日よりも今日、今日よりも明日、できることをひとつずつでも増やしていきたい。そして、その喜びを患者様、ご家族と共有していきたい。そんな想いを胸に日々のリハビリに取り組んでいます。

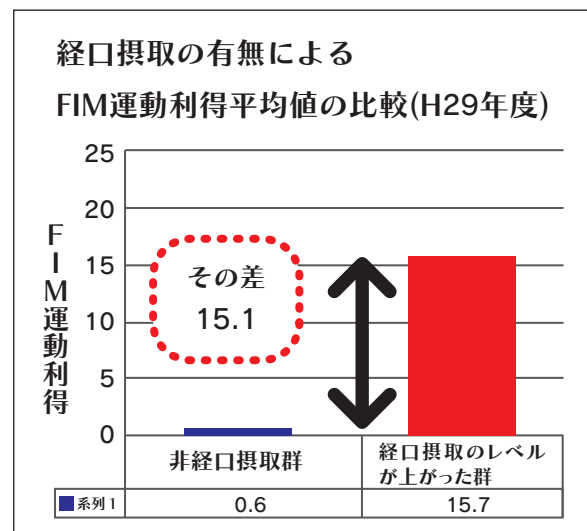
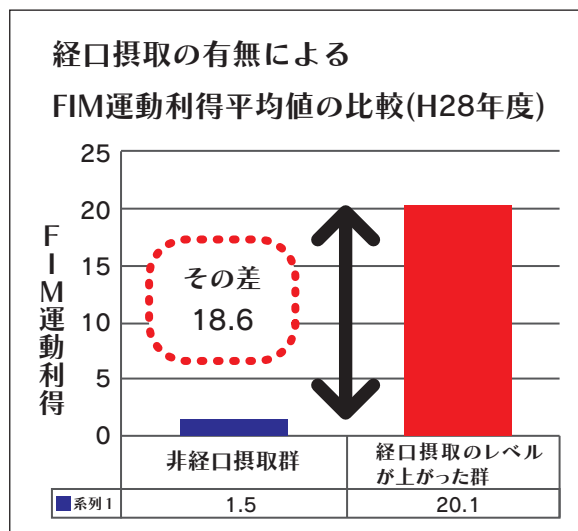


摂食・嚥下リハビリテーションと機能的自立度評価(FIM)

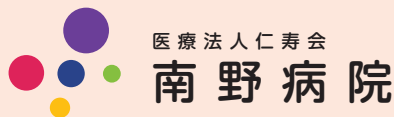
高齢者がかかる肺炎の多くは、誤嚥性肺炎、すなわち、加齢による嚥下機能の低下による誤嚥によって引き起こされています。言語聴覚士が行うリハビリテーションは、摂食・嚥下機能の維持や向上を目的としています。

摂食・嚥下リハビリでは、できるだけ早期にリハビリを始めることがとても重要です。当院は退院後の生活を意識した多職種連携による24時間365日の生活リハビリを実施しています。摂食・嚥下リハビリも、退院後のご自宅等での食事時間にできるだけ近い時間帯にリハビリを実施するように心がけています。

下記のグラフは、H28、H29年度の当院回復期病棟における入院期間中の機能的自立度評価(FIM)の運動利得について、非経口摂取群と経口摂取のレベルが上がった群の二つに分けて比較したものです。



非経口摂取群ではFIMの大きな改善は見られませんでした。経口摂取のレベルが上がった群ではFIMが大きく改善していることがわかります。すなわち、嚥下能力を改善することは、身体機能の改善や日常生活動作の向上と密接に関係しているものと考えています。



医療法人仁寿会

南野病院

〒856-0826
大村市東三城町33番地 TEL.0957-54-8800 (代) FAX.0957-54-8755
療養病棟／回復期リハビリテーション病棟／緩和ケア病棟
健診部TEL.0957-54-5551 FAX.0957-54-8755
通所リハビリテーション / 訪問リハビリテーション **ゆ〜かり**

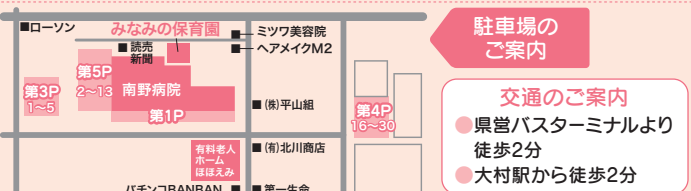
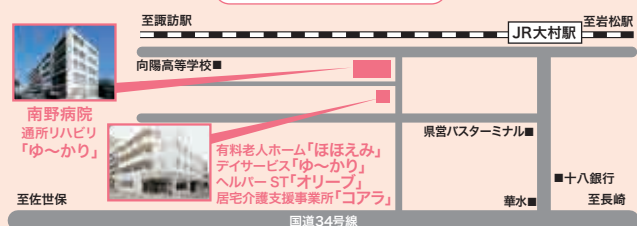
有料老人ホームほほえみ TEL.0957-47-8601 FAX.0957-47-8632
デイサービス ゆ〜かり TEL.0957-47-8606 FAX.0957-47-8607
ヘルパーST オリーブ TEL.0957-47-8857 FAX.0957-47-8858
居宅介護支援事業所 **コアラ** TEL.0957-53-3731 FAX.0957-53-3732
みなみの保育園 TEL.0957-56-8812 FAX.0957-56-8821

診療科目 ●内科 ●消化器科 ●放射線科 ●循環器科 ●リハビリテーション科
休診日 金曜午後・土曜・日曜日・祭日

南野病院 検索

ホームページ <http://www.minamino-hosp.jp/index.html>

交通アクセス



駐車場の ご案内

- 交通のご案内
- 県営バスターミナルより 徒歩2分
 - 大村駅から徒歩2分

当院はクレジットカードでのお支払いが可能です

